

第3学年 外国語（英語）科 学習指導案

指導者 教諭 蓮見 宏明
AET Jacob Shuart

本時の視点	即興で伝え合う力を育む指導の工夫
-------	------------------

1 単元 Unit5 A Legacy for Peace (NEW HORIZON English Course 3)

2 目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるのかについて伝え合うことができる。

3 関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと〔やり取り〕	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
------------	--

4 単元の評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<知識>	<技能>		
話すこと 「やり取り」	名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that[which]（主格・目的格）などを用いた文の構造を理解している。	偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that [which]（主格・目的格）などを用いて述べ合う技術を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるのかについて、伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるのかについて、伝え合おうとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元では、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーの人生を扱っている。自分の身体を犠牲にしても主張し続けた彼の基本精神についてふれることができる。

また、本単元では、関係代名詞を新出表現として扱っている。人物や物事について、情報をさらに付け加えるための用法として有用であるが、生徒にとって難易度が高い。

(2) 生徒の実態（在籍 32名）

本学級の多くの生徒はコミュニケーション活動に意欲的である。一方で、AET に行ったパフォーマンステストにおいては、既習事項を用いながら、単語を並べるだけでなく、AET が理解できる文で1分間継続して話すことができる生徒（A 評価）の割合は約6%と非常に少ない。「即興性」が求められる会話においては、ジェスチャーを交えながら、短文で話す生徒や簡単な英単語を並べて話す生徒（B 評価）の割合が約88%と高く、正確にまとめた文章で表現ができる生徒の割合は少ない。

英語に関する実態調査 調査人数 32名 令和3年7月6日実施	
(ア：かなりできる イ：おおむねできる ウ：どちらとも言えない エ：どちらかというときできない オ：全くできない)	
1	相手の質問の意味を理解することができる。 ア 3名 イ 15名 ウ 8名 エ 5名 オ 1名
2	相手の言ったことに対して相づちをうつことができる。 ア 3名 イ 13名 ウ 10名 エ 4名 オ 2名
3	相手の言ったことに対して情報を得るためにさらに質問することができる。 ア 2名 イ 7名 ウ 6名 エ 13名 オ 4名
4	質問されたことに応答するだけでなく、さらに自分の意見や感想を1文以上付け加えることができる。 ア 2名 イ 5名 ウ 12名 エ 10名 オ 3名
5	話題に対して適切に会話を進めることができる。 ア 2名 イ 9名 ウ 13名 エ 4名 オ 4名
6	パフォーマンステスト Topic: travel plan 評価はAET評価による A評価(理由や意見, 考えを述べることができ, まとまりのある英文で対話を継続することができる。) 2名 B評価(簡単な表現を使い短い文章で話すことができる。) 28名 C評価(単語のみやジェスチャーを用いて相手に話すことができる。) 2名

(3) 指導観（本分科会テーマについて）

本分科会では、即興で伝え合う指導の工夫について研究を進めてきた。これまでの授業では、Small Talk や 3-Hint-Quiz, Picture Describing などの即興性を必要とする活動を帯活動として取り入れてきた。生徒が主体的に意見交換する場を十分に設定し、意欲的にコミュニケーション活動に取り組むことができるように留意している。また、英語を話すことが苦手な生徒に対しては、絵や写真を用いて会話のヒントを与えるなど、個別の支援をしながら指導している。

単語を並べるだけでなく、理由や意見、考えを述べたり、まとまりのある英文で対話を継続したりすることができる生徒の割合が低いことから、相づちやリフレーズ、対話を発展させるための質問等、即興的に会話を継続するために必要な表現を使う場面を繰り返し設定していく必要がある。また、理由や条件などを付け加えることで説得力がある意見を伝えることができるということを生徒に実感させたい。

新出表現として、関係代名詞の諸用法が扱われているが、その難易度を踏まえ、文法指導に偏ることなく、十分な活用を通して伝えたい事柄について具体的な情報を加えるための有用性に気付かせたい。

また、ガンディーの非暴力を基本とした独立抵抗運動の内容を知ることを通して、「理不尽なことに屈しない心」「暴力に訴えない行動」など社会的な話題について考え、伝え合う機会にしたい。

6 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時	ねらい（■）主な言語活動（○）	知	思	態	評価の観点【評価方法】
1	1	■単元の目標を理解する。 ■Preview の映像を見て必要な情報をつかみ、その内容を伝え合うことができる。 ○単元の学習を始める前に、映像を通して単元全体の概要を読み取ることで本単元の学習の見通しを立てる。 ○Preview の映像を見て読み取った情報を伝え合う。 ■どのような人 [もの] かを理解するために要点を捉えたり、言葉に情報を加えてどのような人 [もの] かを説明したりすることができる。 ○名詞を修飾する文などの理解をもとに、さらに詳しい情報を加えて説明する。				本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。
	2	■どのような人かを理解するために、要点を捉えたり、人について具体的に説明するために言葉に情報を加えて説明した				本時では、学習状況を把握するが、記録に残す

		りすることができる。 ○関係代名詞などを使った表現を読み、どのような人かを理解する。 ○関係代名詞などを使った表現を用いて、人についてより具体的な情報を加えて説明する。				評価は行わない。
	3	■写真のデータに関する放送を聞いて、要点を捉え、正しい順序に並べ替えることができる。 ○写真データに関する放送を聞いて、正しい順番に並び替える。 ■前時までの内容に関する質問について正しい組合せの文章をつくることができる。 ○本文中に書かれた人やもの、場所などに関する質問について、正しい組合せを選び、文章を完成させる。				本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。
	4 5	■友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、ガンディーの生涯と功績について書かれた文章を読んで、考えたことや感じたこと、その理由などを英文を引用するなどして伝え合うことができる。 ○友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、ガンディーの生涯と功績について書かれた文章を読んで、考えたことや感じたこと、その理由などを英文を引用するなどして伝え合う。				本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。
	6 (本時)	■友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるかについて伝え合うことができる。 ○友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（偉人の功績）についての英文に関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを英文を引用するなどして伝え合う。 ○友達の意見について、合意できる点（できない点）、その理由を踏まえて伝え合った内容を書く。		○	○	『話すこと [やり取り]』の記録に残す評価 (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度)【観察】
2	1	パフォーマンステスト ■四中 SDG s の提言について、生徒4人でやり取りをすることができる。 ○テーマを示す。 ○2分間個別に考える。 ○生徒4人が AET の前で四中 SDG s について3分のやりとりを行う。	○	○	○	『話すこと [やり取り]』の記録に残す評価 (知識・技能) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 【パフォーマンステスト】

※記録に残す評価は行わない場合においても、ねらいに即して生徒の活動の状況を十分に見届けて、指導に生かすことは毎時間行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

7 本時の指導

(1) 目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるかについて伝え合うことができる。

(2) 準備

生徒用 PC, タイマー, 大型モニター

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 ◎本時の視点に迫るための手立て	
	JTE	AET
1 あいさつをする。 2 3-Hint-Quiz を行う。 “Historical Person” He is a famous person. He fought for world peace. Many people in India love him. 3 Small Talk を行う。 (1) Talk① Peace A: What do you think about peace? B: I think it is important. Everyone should be friendly. What can we do for world peace? A: We can learn more about other people. B: What do you mean? A: I think different things are important to different people. If we can understand what they need, we can have more peace. 4 偉人に関する映像を見て、偉人の功績について振り返るとともに、本時の課題を確認する。 世界をよりよくするために自分たちは何ができるかについて伝え合うことができる。 5 4人グループによる表現活動を行う。 (1) Thinking Time 会話活動をする前に、説明に必要な情報、キーワード等を個別に考える。 (2) Talk② What can we do to make a better world?	・簡単なやり取りを交えながら、英語を学習する雰囲気をつくる。 ・生徒が答えることができない場合には、paraphrase などにより、簡単な質問や表現を示して、答えが容易になるように配慮する。 ・中間指導では、英語を話すことや自分の意見を伝えることに難しさを感じる生徒のために、意見を伝えるためのアイディアや、英語で簡単な表現を示し、共有する。また、ジェスチャーを用いたり、生徒とインタラクションをしたりしながら、内容面や言語面について全体で共有できるようにする。 ・ガンディーの生涯を AET や生徒とともにインタラクションをすることで振り返り、本時活動のヒントとする。 ◎自分の意見や考えをまとめるのが困難な生徒に対して、簡単な英語を用いて会話をしながら、生徒が伝えたい英語を引き出すなどの支援を適宜行う。 ◎世界をよりよくするためのアイディアについてイメージすることができるよう表現を繰り返したり、生徒とやり取りをしたりしながらデモンストレーションする。 ◎中間指導をし、生徒とやり取りを交えながら英語で言えなかった表現やコモンエラーを学級で共有し、グループを変えて2回目、3回目を行う。 ・表現が難しい場合は、既習の表現を用いて、簡単な表現に言い換えたりするとよいことなど、生徒の実態に応じて適宜助言する。 ・机間指導の中で、会話を観察しながら、称賛の声かけをして発表を促す。	・生徒の会話に入っていく、スムーズに話ができるように、簡単な質問をしたり、paraphrase や recast でヒントを与えたりしながら、生徒が発言できるようにする。 ・生徒の会話に入っていく、自然な会話ができるように簡単な質問をしたり、paraphrase や recast でヒントを与えたりしながら、生徒が発言できるようにする。 ・中間指導の際には、生徒の言いたい表現と一緒に考え、助言する。

A: What can we do to make a better world? B: We can be kind to other people like Gandhi. He was a leader who used non-violence to get independence. He fought against discrimination. We should be kind to other people in need. A: That's a nice idea.	評 友達の見解等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるのかについて、伝え合っている。 (思考・判断・表現)【観察・ルーブリック評価表】 評 友達の見解等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、偉人の功績などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などをもとに、世界をよりよくするために自分たちは何ができるのかについて、伝え合おうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)【観察】
(3) グループを変え2回目、3回目の活動を行う。 (4) 自分が伝えた内容をワークシートに書く。 6 自己評価を Google Forms に入力する。	・机間指導の中で、会話中の相手の発言や質問などを振り返ることができるように声かけをするとともに、パラフレーズやリキャストでヒントを与えたりしながら、生徒が伝え合った内容を書きやすくする。 ・机間指導の中で生徒の振り返りを見取りながら前向きな声かけをして次時への意欲につなげられるようにする。